

【短報】函館産ヘリトゲコブスジコガネの記録

ヘリトゲコブスジコガネ *Trox mandli* Balthasar, 1931 は、トランスバイカル地方の Werchne Udinsk (= Verkhne-Undinskoye, Chitinskaya Oblast') 産で記載され、後に Balthasar (1936) によって沿海州の Wladiwostok (= Vladivostok) から記録された中型のコブスジコガネである。日本の札幌産で記載された *Trox nishijimai* Nakane et Tsukamoto, 1955 は、Nikolaev (1977) によって本種の下位同物異名とされた。本種は、コブスジコガネ類の採集法がわかった現在では、日本列島の北海道から九州の広範囲で分布が確認されているが、産地はいくぶん局所的である。北海道の渡島半島からは、堀 (2009) によって本種の採集記録 4 例が掲げられ、早春に得られることも併せて報告されている。筆者の一人、佐藤は 1960 年代に北海道函館市付近で甲虫類を採集し報告したが、その中に本種が含まれていたののでここに報告し既報の訂正としたい。

1 頭、北海道函館市函館山, 5. V. 1964, 佐藤公治採集 (西川保存)。

上記標本には、“*Niphades variegatus* Roelofs クロコブゾウムシ”の同定ラベルが添付され、その名称で報告 (佐藤, 1967) されている。また、晴れの天候下、午前 10:30–11:00 の間に葉上で採集した旨が記された補助ラベルが添付されている。葉上から採集されたことは事実ではあるが、本種の本来の生息場所ではないであろう。青山 (1940) は、札幌市丸山原生林のコブスジコガネ 5 種について報告し、「札幌附近の鳥は多く此の山に集合し、冬季に於いては食物の欠亡等に依り死亡するものが多くこの死骸が最も *Trox* の採集に適している。…積極的に鳥の死體を一箇所に集めて意外の成績を得た」と採集法を記しているが、上記個体の採集地の函館山は以前からカラスの集団が棲みついていることで有名である。*Trox* 属の種は、死骸の羽毛、爪、鱗、嘴などの角質組織のケラチンを主な食餌としていると考えられている (Clark & Grebennikov, 2005) ことから、函館山の本種の個体群もカラスなどの死骸のそれらの部分を主な食餌としていると思われる。

引用文献

- 青山信一, 1940. 札幌近傍産 *Trox* 属に就いて. 昆虫界, 8: 160–163.
 Balthasar, V., 1931. Sechs neue *Trox*-Arten aus dem Ussurigebiet und Transbaikalien. (10. Beitrag zur Kenntnis der Scarabaeidae des palaearktischen Faunagebietes.) Entomologische Blätter für Biologie und Systematik der Käfer, 27: 128–134.

Balthasar, V., 1936. Monographie der Subfam. Troginae der palaearktischen Region. (33. Beitrag zur Kenntnis der palaearktischen Scarabaeiden.) In: Festschrift zum 60. Geburtstag von Professor Dr. Embrik Strand, Riga, 1, pp. 407–459.

Clark, H. S. & V. V. Grebennikov, 2005. Scarabaeoidea Latreille, 1802. In: Beutel, R. G., & R. A. B. Leschen (eds.), Handbook of Zoology, A Natural History of the Phyla of the Animal Kingdom, 4 Arthropoda: Insecta, part 38, Coleoptera, Beetles, 1: Morphology and Systematics (Archostemata, Adephaga, Myxophaga, Polyphaga partim), pp. 367–425. Walter de Gruyter, Berlin.

堀 繁久, 2009. 北海道産 *Trox* 数種の記録. jezoensis, (35): 53–55.

中根猛彦・塚本珪一, 1955. 日本産コブスジコガネの分類. あきつ, 4: 85–92.

Nikolajev, G. V., 1977. Notes on synonymy of lamellicorn beetles from Mongolia and adjacent territories. In Kerzhner, I. M. (ed.), Nasekomye Mongolii, 5, pp. 268–271. Nauka, Leningrad.

佐藤公治, 1967. 最近の函館附近の鞘翅目. 生物研究部々報, 函館西高校生物部, (15 [for 1966]): 20–39.

(〒 040-0065 函館市豊川町 19-15 佐藤公治)

(〒 243-0402 海老名市柏ヶ谷 1112-16

西川正明)

【短報】天竜川河川敷におけるババマルドロムシの確認記録

マルドロムシ科 Georissidae は体長 1.2–1.9 mm 程度 (日本産) の微小な甲虫で、世界から 1 属 3 亜属 77 種、日本からは 1 属 3 亜属 7 種が記録されている (Hansen, 1999, 2004)。成虫は水辺の砂泥上で発見されたり、灯火に飛来した個体などが得られているが、日本では詳しい生態は判っていない。静岡県からはシワムネマルドロムシ *Georissus* (*Neogeorissus*) *kurosawai* Nakane, 1966 とヤマトマルドロムシ *G. (N.) japonicus* M. Satô, 1972 の 2 種が確認されていて、いずれも県レッドリストの情報不足 (DD) に選定されている (多比良, 2004)。

ババマルドロムシ *Georissus* (*Georissus*) *babai* M. Satô, 1970 は、新潟県笹口浜および中条 (いずれも現胎内市) で採集された標本を基に記載された種で (Satô, 1970), 原記載以後、追加の標本は得られていないようである (Satô, 1972; 佐藤, 1981, 1985; 吉富私信)。筆者の一人、石川は静岡県天竜川においてババマルドロムシと同定される個体を採集しているので報告する。

採集記録: 5exs., 18–19. V. 2009, 静岡県浜松市南区鶴見町天竜川右岸河川敷, 石川 均・池上宙志

採集.

天竜川産の個体は翅鞘の点刻の状態などが新潟県産の個体と若干異なるようであるが、その他の特徴は概ねババマルドロムシの記載に一致するので、同種と判断した(図1). 本種は静岡県内で初め



図1. ババマルドロムシ 成虫背面(天竜川産).

での確認になるとともに、原記載以降初めての記録になると思われる。基準産地の現在の状況は筆者らには判らないが、天竜川が現在本種の生息する唯一の確実な生息地となる可能性がある。

確認されたのは特殊な環境ではなく、土壌が未発達な砂地でチガヤを主とした草地になっており、天竜川には各所に見られる環境である(図2). 本種はこのチガヤ草地に設置したピットフォールトラップにより採集された。採集場所は水際から約100mとかなり離れていたが、複数個体が同時に得られたことからこの環境が生息地の一部になっているものと考えられる。

このピットフォールトラップ(市販のプラスチックコップ10個)により同時に得られた他の甲虫を参考までに表1に示す。

なお、本種の確認された場所(図3)は河川整備計画に従って植生の除去が大規模に行われ、現在は砂礫裸地に改変されている(図4)。しかしながら、天竜川には同様の環境は多く見られることから、まだほかにも生息地があるものと考えられる。

本報告は「河川水辺の国勢調査」により得られた成果の一部である。この分布上重要な情報を公表することにより、新たな産地や生態等の新知見につながることを期待し発表するものである。貴重な情報の公表にご配慮いただいた、国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所に御礼申し上げます。

表1. ピットフォールトラップ確認種.

| ババマルドロムシと同時に得られた種 | 個体数 |
|--|-----|
| ミカワオサムシ <i>Carabus arrowianus arrowianus</i> (Breuning, 1934) | 2 |
| ヨツボシツヤナガゴミムシ <i>Abacetus tanakai</i> Straneo, 1961 | 1 |
| コガシラナガゴミムシ <i>Pterostichus microcephalus</i> (Motschulsky, 1860) | 2 |
| コアオマルガタゴミムシ <i>Amara chalcophaea</i> Bates, 1873 | 1 |
| キボシアオゴミムシ <i>Chlaenius posticalis</i> Motschulsky, 1853 | 1 |
| ムナビロコケムシ族の1種 <i>Cephennini</i> , sp. | 1 |
| アシベコバネセスジハネカクシ <i>Anotylus amicus</i> (Bernhauer, 1923) | 4 |
| ホソケシマグソコガネ <i>Trichiorhyssemus asperulus</i> (Waterhouse, 1875) | 2 |
| コケシマグソコガネ <i>Myrnessus samurai</i> (Balthasar, 1941) | 13 |
| クロクシコメツキ <i>Melanotus senilis senilis</i> Candèze, 1856 | 1 |
| チビミズギワコメツキ <i>Pronegastrius lewisi</i> (Schwarz, 1907) | 7 |



図2. 採集地.



図3. ババマルドロムシの生息する天竜川河川敷(2009年5月撮影).



図4. 河川整備により植生が除去された同河川敷(2009年12月撮影).

げる。また、愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士にはババマルドロムシの標本写真を拝見させていただき、いろいろとご教示を賜った。深謝申し上げます。

引用文献

Hansen, M., 1999. Georissidae. Hydrophiloida (s. str.) (Coleoptera). In Hansen, M. (ed.), World Catalogue of Insects, 2: 44-51. Apollo Books, Stenstrup, Denmark.
 Hansen, M., 2004. Georissidae. In Löbl, I. and A. Smetana (ed.),

Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 2. Hydrophiloidea-Histeroidea-Staphylinoidea. p. 42. Apollo Books, Stenstrup, Denmark.

Satō, M., 1970. Une nouvelle espèce de genre *Georyssus* Latreille au Japon (Coleoptera: Georyssidae). The Journal of Nagoya Women's College, (16): 199-200.

Satō, M., 1972. The georissid beetles of Japan. The Journal of Nagoya Women's College, (18): 207-213.

佐藤正孝, 1981. 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1-4.

佐藤正孝, 1985. マルドロムシ科. 上野俊一ほか編, 原色日本甲虫図鑑, 2, 205-206, pl. 37. 保育社, 大阪.

多比良嘉晃, 2004. シフムネマルドロムシ, ヤマトマルドロムシ. まもりたい静岡県の野生生物—県版レッドデータブック—動物編. pp. 232-233. 静岡県自然環境調査委員会, 静岡.

(〒 422-8034 静岡市駿河区高松 2-7-1-405
多比良嘉晃)

(〒 420-0047 静岡市葵区清閑町 13-12 株式会社環境アセスメントセンター 石川 均)

【短報】東京都におけるウメヤルリミズギワゴミムシの採集例

ウメヤルリミズギワゴミムシ *Bembidion* (*Peryphus*) *umeyai* は、北海道の定山溪を基準産地として Habu (1959) によって記載されたミズギワゴミムシである。森田 (2001) は、雄交尾器を再検討し、その分類上の位置について言及している。

本種は北海道をはじめ、青森、秋田、岩手、山形、神奈川、岐阜、愛媛などから記録されており (笠原, 1985; 穂積, 1994; 有井ら, 2004; 栗原ら, 2007; 吉武ら, 2011), 北海道や岩手、神奈川県では県版のレッドデータブックに掲載されている (北海道環境生活部, 2001; 岩手県環境生活部自然保護課, 2001; 田尾, 2006)。

筆者は東京都において本種を採集しているので



図1. ウメヤルリミズギワゴミムシが確認された岩盤 (奥多摩町)。

記録しておく。

2♂♂, 西多摩郡奥多摩町日原川倉沢出合, 14. V. 2011; 3♀♀, 奥多摩町留浦三沢 (峰谷川), 21. V. 2011; 1♂, 奥多摩町留浦下り (峰谷川), 21. V. 2011; 4♂♂, 奥多摩町大丹波 (大丹波川), 12. VI. 2011; 1♀, 奥多摩町南氷川 (多摩川), 4. VII. 2011, いずれも筆者保管。



図2. ウメヤルリミズギワゴミムシ (奥多摩産)。

河川上流部で、周辺がやや鬱閉した溪流沿いの岩盤のコケの間隙や、溪流中から露出した巨大な岩のくぼみに堆積したわずかな落葉の下から得られた。日中でもコケの間から岩上に移動し、活動しているのが観察された。採集個体のほかにも複数を目撃しており、本種の主要な生息環境のひとつは、図1に示したような溪流で、露頭した岩盤や岩であると考えられた。奥多摩地域では、比較的広い範囲で生息している可能性が高い。

なお、東京都からは、東京都建設局が公開しているホームページ上 (<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ikimono2/index.htm>) で、多摩川に生息する生物のリストが示されており、本種が多摩川の日原川合流地点において、7月に得られていることが明記されている。ただし、問い合わせたところ、記録の元となった標本は保管されておらず、その所在は不明とのことだった。

末筆ながら、本稿を草するにあたり、北海道産の本種標本を比較のために提供してくださった堀繁久氏 (北海道開拓記念館)、有用な情報をくださった吉富博之氏 (愛媛大学ミュージアム) のお二方に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 有井一雄・守屋博文, 2004. 津久井町の昆虫 I. 津久井町史調査報告書, 113 pp.
- Habu, A., 1959. One new species of *Bembidion* from Hokkaido (Coleoptera, Carabidae). Kontyû, Tokyo, 27: 257-259.
- 北海道環境生活部, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 309 pp.
- 穂積俊文, 1994. ウメヤルリミズギワゴミムシを岐阜県で採集. 甲虫ニュース, (106): 10.
- 岩手県環境生活部自然保護課, 2001. いわてレッドデータブック